

3. 生産性向上に向けた取り組み事例

豊後大野家畜保健衛生所、¹⁾大分家畜保健衛生所、²⁾農業大学校
○波津久香織・寺山将平・(病鑑)川部太一・
病鑑 林拓己¹⁾、病鑑 人見徹¹⁾、(病鑑)壁村光恵²⁾

【はじめに】

管内の繁殖雌牛は501戸で約7,300頭飼養され、県下の繁殖雌牛の概ね42%を占める主要な生産産地である。当家保は、特定家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため定期的な農家の立入り検査を行っている。その立入り検査において、呼吸器病、消化器病の発生を把握すると共に、疾病の発生率や死産率を低減させる有効な対策を講じ生産性の向上に向けた取組を進めている。今回、これらの取組を行っている3農場について報告する。

【農場の概要及び取り組み内容】

A農場：繁殖牛34頭の飼養農場で子牛に皮膚疾患を確認した。飼育環境調査や母牛の代謝プロファイルテスト（以下、MPT）を実施した。検査結果から母牛のエネルギー不足とタンパク質不足が認められたため、母牛の給与飼料の見直しを行った。子牛では制限哺乳の時間が長く母子同居が短時間であったことから夜間を母子同居に延長した。令和2年6月に再度MPTを行ったところ母牛のエネルギー不足の改善が見られた。しかし、タンパク質の不足が疑われたことから現在、給餌量などの調整を行い経過を観察している。

B農場：繁殖牛15頭の飼養農場で、早期母子分離を実施している農場において、子牛の皮膚疾患を認めたため、A農場と同様に母牛と子牛のMPTを実施した。検査結果から母牛は問題がなかったが、子牛では栄養状態の低下、脱水、ビタミンAの低下が確認された。その原因として①子牛が過密状態であること②水槽が小さく水不足になっていたこと③餌箱が小さいなど3つの改善点が確認されたため、飼育スペースの見直しなどを行った。また、人工哺乳を実施している子牛についてはカウハッチを設置し、個別飼育を指導した。現在、分娩舎及び子牛舎を別棟に増築する準備を行っている。

C農場：繁殖牛を55頭を飼養する農場において、5ヶ月齢と6ヶ月齢の子牛の死亡があり病性鑑定を実施したところ哺乳による誤嚥性肺炎で死亡したと診断した。飼養管理の状況を調査したところ、給与時間や乳首形状等により誤嚥を誘発する哺乳方法である事がわかった。再発防止のため、当該農場を含む管内の人工哺乳を実施している農場向けに現場研修及び学習会を実施した。当該農場において哺乳は改善され、誤嚥性肺炎の発生は見られない。

【まとめ】

当家保では、立入り検査時において認められた農場毎の問題点について現状把握を行い関係機関と連携して丁寧な指導を実施し、県下の繁殖雌牛の主要な生産産地である当家保管内の生産性向上に努めている。今後もこのような事例を積み重ね、他農場の改善に生かし生産性の向上に努めたい。